

# KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

可能性を表す“会”の教授法について：  
中国語初級学習者を中心に

メタデータ	言語: ja 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2023-10-16 キーワード (Ja): “会”, 未来予測, 助動詞, 誤用分析, 教授法 キーワード (En): 作成者: 安田, 真穂, 籠谷, 香理, 趙, 嵐, 宋, 天鴻 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学, 関西外国語大学, 関西外国語大学, 関西外国語大学
URL	<a href="https://doi.org/10.18956/0002000020">https://doi.org/10.18956/0002000020</a>

# 可能性を表す“会”の教授法について

— 中国語初級学習者を中心に —

安田 真穂      籠谷 香理

趙 嵐      宋 天鴻

## 要 旨

従来、初級中国語学習者にとって「未来予測」の“会”は習得が難しく、特にこの“会”の欠落問題が目立つと指摘されてきた。そこで本稿では、この“会”を取り上げ、関西外国語大学英語国際学部の中国語初級学習者約250名に対して計4回の小テストを実施し、その誤用パターンを収集、分析、データ化しながら、より効果的な教授法を考究した。

その結果、次のような教授法の提案に至った。一、“会”が主に「未来予測」に使われることを強調する。二、日本語に「だろう」が無いと、“会”を使うことを想起できない問題に関しては、中国語は日本語と違って、未来予測の表現では有標であることを強調し、日本語の無標表現から「だろう」の意味を読みとって、“会”を学習者自ら補えるように指導する。三、“会”が「助動詞」であることを強調し、語順に注意させる。四、主に会話を中心とした様々なシチュエーションの中で、繰り返し練習し体得させる。

キーワード：“会”、未来予測、助動詞、誤用分析、教授法

## 1. はじめに

我々研究チームは現在、主に1年生に向けて開講される「基礎中国語」と「初級中国語」、そして「中国語会話Ⅰ」と「中国語会話Ⅱ」を担当しており、同じクラスをペアで担当することが多い<sup>1)</sup>。互いに中国語の教授法について意見交換する中で、可能性を表す“会”について、使うべき場面で使っていない、もしくは誤用が多く見られることに気付いた。

可能性を表す“会”は、新HSK（新漢語水平考試）3級の語彙に分類されており（『HSK標準教程』を参照）、そのレベルについては『中国語検定 HSK 公式過去問題集 3級 [2021年度版]』（p.7）に、「生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとることができ、中国旅行の際にも大部分のことに対応できる。」と定義されている。このことから、可能性を表す“会”は学習者が習得すべき大事な文法項目の一つであると言える。

そこで本稿では、この“会”を取り上げ、先ず現在日本で発売されているテキストにおいて

“会”がどのように扱われているのかを調査した上で、関西外国語大学英語国際学部の初級学習者（約 250 名）に対して計 4 回の小テストを実施した。その結果から、誤用パターンを分類し、データ化した。そして、これらの分析結果を元に、“会”の持つ特性について考察を加えた上で、初級学習者にとって更なる効果的な教授法を考究し、提案したい。

## 2. 先行研究及び初級テキスト調査

### 2.1. “会”の意味に関する先行研究

中国語の助動詞“会”は、例 (1) (2) のように、主に「能力」や「可能性」を表す用法を持つ（朱徳熙 1982、相原・石田・戸沼 1996、呂叔湘 1999、劉月華・潘文娛・故韡 2001 など）。

(1) 你会说几种外语？（劉月華他 2001:184）

[あなたは何ヶ国語話せますか？]

(2) 他一定会成功的。（呂叔湘 1999:278）

[彼はきっと成功するだろう。] (例文の下線、日本語訳は筆者。以下同様。)

例 (1) の“会”は、聞き手の言語能力について言及しており、学習や練習を通して習得した技能を表す用法となっている。例 (2) の“会”は、彼が成功する可能性があるということを表す用法である。「可能性」を表す“会”に関しては、主に例 (2) のように、事態が未来に生起する可能性（本稿では「未来予測」と呼ぶ。）を表し、周辺的な用法として例 (3) (4) のような、事態が発話時に存在する可能性や、過去時点に起きている可能性を表す場合もある（朱徳熙 1982、相原・石田・戸沼 1996、呂叔湘 1999、劉月華・潘文娛・故韡 2001 など）。

(3) 现在他会在宿舍。（相原・石田・戸沼 1996:180）

[今彼は宿舎にいるだろう。]

(4) 过去，我是不会同意这样做的。（劉月華・潘文娛・故韡 2001:185）

[昔だったら、私はこうすることに賛成するはずがなかった。]

更に、柯理思（2007）、範曉蕾（2020）、中村（2020）などでは、例 (5) (6) のように、“会”には習慣相（habitual）や未来の予定を表す用法もあると指摘している。

(5) 我一闻到辣的会打喷嚏。（柯理思 2007:103）

[私は辛いものの匂いを嗅ぐとすぐくしゃみが出る。]

(6) 礼堂明天上午会有一个展览,你可以去看看。(範曉蕾 2020:102)

[明日の午前中にホールで展覧会があるので、見に行ってみるといい。]

例(5)では、“会”は、「辛いものの匂いを嗅ぐとくしゃみが出る」という、繰り返して発生することを表す。例(6)では、“会”は、明日の予定を表す用法である。

以上、“会”には主に「可能性」、「習慣相」、「未来の予定」の三つの用法があることを確認した。

## 2.2. 初級テキスト調査

この「可能性」を表す“会”について、現在、大学にて使用されている初級用のテキストでは、どのように説明され、またどのような例文が挙げられているのかを調査した。その結果、初級テキストの例文は、ほとんどが「未来予測」の用法で、一部「事態が発話時に存在する可能性」を表す用法が取り上げられているものもあるが、「習慣相」や「未来の予定」の用法はほとんど取り扱われていなかった。以下、更に詳しく見ていく。

まず対象としたのは、「初級中国語テキスト」の中でもあまり古く出版されたものは避け、朝日出版社、郁文堂、金星堂、好文出版、松柏社、駿河台出版社、東方書店、同学社、白水社、白帝社の10社から、2000年以降に出版されたテキスト123冊を対象に調査した。その結果、可能性を表す“会”を取り扱っているテキストは43冊で、全体のほぼ1/3程度であった。これは可能性を表す“会”が初級学習者にとって習得が難しく、中級中国語テキストで取り上げられることの多い文法項目であるためである。このことは前述の新HSK3級のレベルに分類されていることから看取できる。

可能性を表す“会”を取り扱っているテキスト43冊について、まずは文法の解説方法を比較してみると、“会”を文法項目として提示しているものの、詳細な説明については載せていないテキストが11冊あった。「可能性」、「蓋然性」、「推測」などのキーワードを用いて解説していたものは32冊あったが、中でも、可能性を表す“会”が主に「未来」に使うと説明を付け加えていたものは1冊のみであった。

次に、文法解説の中で、“会”の日本語訳を比較すると、訳例を複数挙げているものは21冊あり、その中で最も多かったのが「だろう／はずだ」の二案併記で13冊あった。「だろう／はずだ」の他、「かもしれない」「に違いない」「見込みがある」「可能性がある」「有り得る」といった訳を、それぞれに組み合わせて併記したものは8冊あった。訳例が1つのみのテキストは12冊で、「はずだ」が最も多くて8冊、「だろう」が3冊、「可能性がある」が1冊であった。そのほか、訳例を載せない形式のテキストは10冊であった。

更に、先の43冊のテキストに挙げられた例文の種類について、肯定文、否定文、疑問文に

分けて調査したところ、やはり肯定文を挙げているテキストが32冊と最も多い。肯定文と否定文を両方例示しているテキストは約半分の23冊、そして肯定文、否定文、疑問文を一揃え挙げているテキストは11冊で約1/4程度であった。

また、“会……的”をセットにした例文も多く挙げられていたが、“的”の役割について言及し説明したテキストは12冊であった。また“他一定会来的。”のように、“一定”などの程度副詞と共に起した形での例を挙げているものも17例あった。

### 2.3. “会”の教授法に関する先行研究

2.2節で確認したように、ほとんどのテキストでは、可能性を表す“会”の意味について、「だろう／はずだ」と説明していることが分かる。しかし、“会”の習得に関しては、杉村(2017)が指摘したように、中国語では、諸否疑問文や反復疑問文の返事(你去吗? 一去。/ 你去不去? 一去。[あなたは行きますか?—行きます。/ あなたは行きますか?—行きます。]) 以外は、未来に生起する事態に何らかの形式を用いる傾向があるが、日本語では、「ル形」でも未来の出来事を表すことができるため、未来予測の“会”の欠落問題がしばしば見られる。つまり、日本語では、「だろう／はずだ」を用いなくても、「きっと成功するよ!」など、動詞の裸形式でも「未来予測」の意味を表すことができる。対して、中国語では、“一定会成功的!”のように、助動詞の“会”を用いる必要がある。「会」=「だろう／はずだ」であると「一対一」で覚えてしまうと、言語移転の影響で、「だろう／はずだ」などの有標形式を使わない日本語文を中国語で表現しようとする際に、学習者に“会”を使う意識が喚起されにくいことが危惧される。

松田(2015)、羅華(2021)では、“会”の欠落問題について、中国語では、未来の可能性を語る場合は助動詞を伴わなければならないことを学習者に認識させることが大事であると述べている。しかし、母語を経由せず中国語を直に中国語で考えることは、初級学習者にとっては難しいであろう。また、これらの研究はいずれも理論の段階にとどまり、実証的な研究には至っていない。そこで本稿では、可能性を表す“会”について、初級中国語学習者が習得すべき典型的な用法としての「未来予測」を中心に、2.2節で提示した初級テキストの調査結果も踏まえて、小テストを実施することで学習者の誤用パターンのデータを取り、分析しながら、更なる効果的な教授法を考究し提案したい。

## 3. 小テストの集計データ

今回、2022年度秋学期に中国語初級学習者約250人を対象に、小テストを計4回実施した。出題内容は次の三種類で「(Ⅰ) 正誤判断問題及び判断理由記述」、「(Ⅱ) 翻訳問題(日本語を中国語に訳す)」、「(Ⅲ) 選択問題」とした。小テストは毎回5問出題し、内3問に「未来予測」

を表す“会”を使った問題を出した。<sup>2)</sup>

データ収集の基準に関しては、“会”の用法についてのみ正しく理解できているかで判断した。よって、単語ミス（例えば“生病”が“病气”や“生气”などとなっているもの）などは判断基準に影響しないものとした。また、出題内容に関して、毎回5問中2問は“会”以外の文法からも出題したが、データは“会”に関する問題に限定して収集、分析し、考察を加えるものとした。

以下、各小テストの集計データを棒グラフと共に示していく。棒グラフについては、「判断理由の記述から“会”が理解できている」、または「“会”を使った正しい文となっている」ものを、「“会”○」で表示し、「“会”を使うことを想起できているが、非文となっている」ものを、「“会”△」、 「判断理由の記述から“会”が理解できていない」、または「“会”を使っていない」ものを「“会”×」で表示している。

### 3.1. 第1回目小テスト

第1回目小テストについて、その問題文と集計データを以下の表1～3にまとめた。

表1

問題文	(I) 正誤判断問題及び判断理由記述 A：他昨天是怎么来的？（正） B：他昨天会是坐飞机来的。（誤）
データ	<p style="text-align: center;">Bについての判断理由から</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 10px;">                     “会”○                      “会”×                 </div> <div style="margin-right: 10px;">}</div> <div style="display: flex; align-items: center;"> </div> </div> <p>主な誤判断理由                  【誤って「正」と判断した理由】                  * “会”は「かもしれない」なので合っているから。                  * “是……的”の使い方が合っているから。                  * “是……的”も“会……的”も正しいから。                  【「誤」と判断したのは正解だが、判断理由を間違えている】                  * “是”が必要ないから。                  * “是会”が正しい語順だから。                  * “会”は「できる」なので、意味がおかしいから。</p>

表2

問題文	(Ⅱ) 翻訳問題 ①あなたは彼が来年留学に行くと思いますか？ 模範解答：你觉得他明年会去留学吗？
データ	<p>「会」○ 32.9% 「会」△ 3.6% 「会」× 63.5%</p>
	<p>「会」△に見られる主な誤答<sup>3)</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 你会不会他明年去留学？ (語順ミス)</li> <li>* 你觉得明年会他去留学的吗？ (語順ミス、共起ミス)</li> <li>* 你明年会他去留学的吗？ (語順ミス、共起ミス)</li> </ul>

表3

問題文	(Ⅱ) 翻訳問題 ②彼は体が丈夫だから、病気になる <b>ないよ</b> 。 模範解答：他身体很健康， <u>不会生病</u> (的)。 (後半下線部分「病気になる <b>ないよ</b> 」のみを判断対象とした。)
データ	<p>「会」○ 48.6% 「会」△ 6.4% 「会」× 45%</p>
	<p>「会」△に見られる主な誤答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 会不生病。 (否定ミス)</li> <li>* 他会没生气。 (否定ミス)</li> <li>* 会不能生病。 (否定ミス、共起ミス)</li> </ul>

### 3.2. 第2回目小テスト

第2回目小テストについて、その問題文と集計データを以下の表4～6にまとめた。

表4



問題文	(I) 正誤判断問題及び判断理由記述 A: 王平去过日本吗? (正) B: 他会去过。(誤)
データ	<p style="text-align: center;">Bについての判断理由から</p> <p>“会”○  67.5%</p> <p>“会”×  32.5%</p> <p>主な誤判断理由 【誤って「正」と判断した理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「彼は行ったことがあるでしょう。(“他会去过。”)」は正しいから。</li> <li>* “会”は可能性を表し、また“过”は経験を表すので正しいから。</li> <li>* 語順が「会+動詞+过」だから、合っているから。</li> </ul> <p>【「誤」と判断したのは正解だが、判断理由を間違えている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* “会”は「できる」なので、文法上おかしいから。</li> <li>* 経験に対して、「できる」「だろう」の意味を持つ“会”はいらないから。</li> <li>* “过”のあとに目的語が必要だから。</li> </ul>

表5



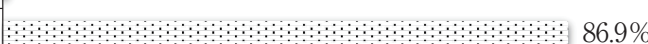
問題文	(II) 翻訳問題 ①あなたは王平さんが智美さんに何のプレゼントを贈ると思いますか? 模範解答: 你觉得王平会送智美什么礼物?
データ	<p>“会”○  12.3%</p> <p>“会”△  0.8%</p> <p>“会”×  86.9%</p> <p>「“会”△」に見られる主な誤答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 你会王平给智美送什么礼物? (語順ミス)</li> <li>* 你会王平送智美什么礼物吗? (語順ミス)</li> <li>* 你是会王平对智美怎么礼物的? (語順ミス、共起ミス)</li> </ul>



表6

問題文	(Ⅱ) 翻訳問題 ② 惠梨さんは李さんを好きにならないよ。 模範解答：惠梨不会喜欢李先生 (的)。
データ	<p>“会”○ 54% “会”△ 10.7% “会”× 35.3%</p>
	<p>「“会”△」に見られる主な誤答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 惠梨喜欢不会李先生。(語順ミス)</li> <li>* 惠梨会不喜欢李。(否定ミス)</li> <li>* 惠梨对李先生会不好了。(否定ミス、共起ミス)</li> </ul>

### 3.3. 第3回目小テスト

第3回目小テストについて、その問題文と集計データを以下の表7～9にまとめた。

表7

問題文	(Ⅰ) 正誤判断問題及び判断理由記述 他明天会就要回国了。(誤)
データ	<p>“会”○ 39.4% “会”× 60.6%</p>
	<p>主な誤判断理由</p> <p>【誤って「正」と判断した理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* “明天”“会”“就要”は時制が一致していて正しいから。</li> <li>* “就要……了”と“明天”の相性がいいので合っているから。</li> <li>* 未来の話をしているので合っているから。</li> </ul> <p>【「誤」と判断したのは正解だが、判断理由を間違えている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* “了”を“的”にすべきだから。</li> <li>* 動詞2個(“会”、“就”)があるから。</li> <li>* “会”は「できる」、「彼は明日帰国する」という意味で使えないから。</li> </ul>

表 8

問題文	(Ⅱ) 翻訳問題 お父さんは妹を留学に行かせると思いますか？ 模範解答：你觉得爸爸会让妹妹去留学吗？								
データ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>“会”○</td> <td>9.3%</td> </tr> <tr> <td>“会”△</td> <td>4.5%</td> </tr> <tr> <td>“会”×</td> <td>86.2%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	“会”○	9.3%	“会”△	4.5%	“会”×	86.2%
回答	割合								
“会”○	9.3%								
“会”△	4.5%								
“会”×	86.2%								
	「“会”△」に見られる主な誤答 * 你觉得爸爸让妹妹会去留学吗？ (語順ミス) * 爸爸让妹妹会去留学吗？ (語順ミス) * 你觉得你爸爸会妹妹去留学？ (語順ミス)								

表 9

問題文	(Ⅲ) 選択問題 智美：星期天一起去 USJ 吧。 王平：星期天人____很多吧。												
データ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A. 可以</td> <td>6.5%</td> </tr> <tr> <td>B. 能</td> <td>6.1%</td> </tr> <tr> <td>C. 会(正解)</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>D. 要</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>0.4%</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	A. 可以	6.5%	B. 能	6.1%	C. 会(正解)	72%	D. 要	15%	無回答	0.4%
回答	割合												
A. 可以	6.5%												
B. 能	6.1%												
C. 会(正解)	72%												
D. 要	15%												
無回答	0.4%												

### 3.4. 第4回目小テスト

第4回目小テストについて、その問題文と集計データを以下の表10～12にまとめた。

表10

問題文	(Ⅱ) 翻訳問題 ①彼の病気はきっと良くなるはずですよ。 模範解答：他的病一定会好(的)。
データ	<p>「会」○ 69% 「会」△ 6.5% 「会」× 24.5%</p> <p>「会」△に見られる主な誤答                  * 他的生病会一定很好。(語順ミス)                  * 他的生病会是好的。(語順ミス、共起ミス)                  * 他的病会一定好了。(語順ミス、共起ミス)</p>

表11

問題文	(Ⅱ) 翻訳問題 ②王平さんは智美さんに服を贈ると思います。 模範解答：我觉得王平会送智美衣服。
データ	<p>「会」○ 34.5% 「会」△ 2.2% 「会」× 63.3%</p> <p>「会」△に見られる主な誤答                  * 我觉得会王平先生送智美小姐衣服。(語順ミス)                  * 我觉得王平往智美会送衣服。(語順ミス)                  * 我觉得王平会智美送一件衣服。(語順ミス)</p>

表 12

問題文	(Ⅱ) 翻訳問題 ③あなたは、お母さんが弟を留学に行かせると思いますか？ 模範解答：你觉得妈妈会让弟弟去留学吗？
データ	<p>                     “会”○ 37.9%                      “会”△ 4.7%                      “会”× 57.4%                 </p> <p>                     「“会”△」に見られる主な誤答                      * 你觉得妈妈让弟弟去留学吗？ (語順ミス)                      * 你觉得会妈妈让弟弟去留学吗？ (語順ミス)                      * 你觉得妈妈会弟弟去留学吗？ (語順ミス)                 </p>

#### 4. 分析と考察

未来予測の“会”の日本語訳は「だろう／はずだ」などの有標形式もあれば、動詞の裸形式もある。従って、今回実施した全4回の小テストの内、前3回については敢えて“会”を想起させる有標形式を使わない設問を作成し、学習者が文脈から「未来予測」の意味を読みとって“会”を想起できるかを調査した。そして、第4回目小テストでは、「だろう／はずだ」を使った設問と使わない設問を両方作成し、これまでの学習効果の最終確認を行なった。以下、第1～3回目小テストのデータと第4回目小テストのデータをそれぞれ分析する。

##### 4.1. 第1～3回目小テストについて

まずは、3節で挙げた第1～3回目小テストについて、正解率<sup>4)</sup>を次の表1のようにまとめた。

表 13 第1～3回目小テストの正解率

出題内容の種類	平均正解率	各問題文の詳細				
(Ⅲ) 選択問題	72%	3-Ⅲ				
		72%				
(Ⅰ) 正誤判断及び判断理由記述	54.9%	1-Ⅰ	2-Ⅰ	3-Ⅰ		
		57.8%	67.5%	39.4%		
(Ⅱ) 翻訳問題	36.6%	否定文		疑問文		
		1-Ⅱ-②	2-Ⅱ-②	1-Ⅱ-①	2-Ⅱ-①	3-Ⅱ-①
		55%	64.7%	36.5%	13.1%	13.8%

表13で示されているように正解率が最も高いのは選択問題で、次に正誤判断問題、そして翻訳問題の順となっている。

「3-Ⅲ」の選択問題「王平：星期天人\_\_\_\_\_很多吧。」において、72%の学習者が“会”を選択できており、与えられた“会”については、「だろう/はずだ」と訳すことができ、未来予測を表すということが理解できていると言える。

「1-Ⅰ」、「2-Ⅰ」、「3-Ⅰ」は正誤判断及び判断理由記述問題である。「1-Ⅰ」と「2-Ⅰ」は“会”が過去を表す“是……的”構文や“V过”と共起可能であるか、「3-Ⅰ」は“会”が近未来表現“就要……了”と共起可能であるか、を確認するための設問である。

「1-Ⅰ」の「B: 他昨天会是坐飞机来的。」において57.8%の学習者が正しく判断でき、「2-Ⅰ」の「B: 他会去过。」において67.5%の学習者が正しく判断できた。このように、半数以上の学習者は未来予測の“会”は過去の行為を表す“是……的”構文や過去の経験を表す“V过”と共起しづらいことを理解していることがわかった。また、学習者の誤判断理由から、「未来予測」の“会”を能力の“会”と混同しているミス、“会……的”の“的”と“是……的”の“的”との混同ミスも見受けられた。そして、学習者は“会”を単に推測の「かもしれない」、「だろう」だと考え、主に「未来予測」に使うことに対する理解が足りていないことも指摘できる。

上記2問に対して、「3-Ⅰ」の「他明天就要回国了。」の正解率は9.4%に留まり、前出の2問と随分差がある。“就要……了”はある事態の生起が差し迫っていることを表し、“会”はある事態の生起の可能性に対する予測を表すので、共起しづらいわけであるが、誤判断理由のデータからは、“明天”、“会”、“就要”は時制が一致していて、近未来表現の“就要……了”は“会”と共起しても問題ないと捉えている学習者が一定数いることが分かる。

「1-Ⅱ-①」、「1-Ⅱ-②」、「2-Ⅱ-①」、「2-Ⅱ-②」、「3-Ⅱ-①」は翻訳問題である。前3回の小テストでは、“会”を想起させる表現「だろう/はずだ」を敢えて使わない翻訳問題で出題し、学習者に回答させた結果、平均正解率は36.6%に留まっており、“会”の欠落問題が目立つことが見て取れる。

翻訳問題を文の種類で分けると、否定文の問題「1-Ⅱ-②」の「病気になるよ。(不会生病(的。))」と「2-Ⅱ-②」の「惠梨さんは李さんを好きにならないよ。(惠梨不会喜欢李先生(的。))」の正解率はそれぞれ55%と64.7%であり、半数以上となっている。この結果から、否定については多くの学習者が日本語訳に頼らずに“不会”を書けていることが確認できた。これは、日本語訳に「だろう/はずだ」が無くとも、学習者にとって「～にならない」の言葉から「未来予測」を連想しやすく、「～にならないだろう」と想起できた為に、“会”を導き出したのではないかと推察できる。

一方、疑問文の問題「1-Ⅱ-①」「2-Ⅱ-①」「3-Ⅱ-①」の正解率は、それぞれ36.5%、13.1%、13.8%となっており、低い数値を示している。「1-Ⅱ-①」の「あなたは彼が来年留学

に行くと思いますか？（你觉得他明年会去留学吗？）」では、「だろう／はずだ」という言葉を敢えて出さずに出題したが、授業で学んだ直後であったことも起因し、約1/3の学習者が意識的に“会”を使うことができたと考えられる。「2-Ⅱ-①」の「あなたは王平さんが智美さんに何のプレゼントを贈ると思いますか？（你觉得王平会送智美什么礼物？）」と、「3-Ⅱ-①」の「お父さんは妹を留学に行かせると思いますか？（你觉得爸爸会让妹妹去留学吗？）」は、それぞれ“会”を学んだ約一ヶ月後と二ヶ月後に実施した小テストであるため、時間の経過と共に、“会”を使う意識が薄れていってしまったことが窺える。また、“会”の欠落の要因として、学習者が、「と思います」には既に「予測」の意味が含まれ、特にその他にはマーカーをつける必要がないと誤認したのではないかと考えられる。

#### 4.2. 第4回目小テストについて

第1～3回目小テストの実施結果から、日本語に「だろう／はずだ」が無い場合に“会”を使うことを想起できない学習者が非常に多いことが明確になった。そこで、我々チームは更なる教授法として、まず、中国語は日本語と違い、未来予測の表現では有標であることを強調し、その上で、日本語の無標表現から「だろう／はずだ」の意味を読みとって、学習者が自ら“会”を補えるよう指導した。そして、その最終段階として、第4回目小テストを全て翻訳問題で実施した。その正解率を表14にまとめ、以下のように結果を分析した。

表14 第4回目小テストの正解率

出題内容の種類	正解率		
	4-Ⅱ-①	4-Ⅱ-②	4-Ⅱ-③
(Ⅱ) 翻訳問題	75.5%	36.7%	42.6%

「4-Ⅱ-①」の「彼の病気はきっと良くなるはずです。（他的病一定会好（的）。）」においては、「はずだ」というマーカーが与えられたため、75.5%の学習者が“会”を想起できた。この結果から、3/4以上の学習者が“会”の意味を理解できていると言えよう。

「4-Ⅱ-②」の「王平さんは智美さんに服を贈ると思います。（我觉得王平会送智美衣服。）」は、第2回目小テストの「2-Ⅱ-①」の「あなたは王平さんが智美さんに何のプレゼントを贈ると思いますか？」と類似の内容で出題した。「2-Ⅱ-①」の正解率は13.1%であったが、「4-Ⅱ-②」の正解率は36.7%となり、学習者の“会”を使う意識が高まったことが見て取れる。

「4-Ⅱ-③」の「あなたは彼が来年留学に行くと思いますか？（你觉得他明年会去留学吗？）」では、「3-Ⅱ-①」の「お父さんは妹を留学に行かせると思いますか？」の単語のみを（「父」を「母」、「妹」を「弟」に）変えた同じ内容で出題した。「3-Ⅱ-①」の13.8%の正解率に対し、「4-Ⅱ-③」の正解率は42.6%となり、この結果からも“会”を使える学習者の増加が見て取れる。

「4-II-②」と「4-II-③」のデータから、日々練習を積み重ねてきた結果、「だろう」などのマーカーが無くとも、「～と思います（か）」などの文章に、「未来予測」の意味を見出し、学習者自ら「だろう」を補足できたからこそ、“会”を使用すべき文章だと認識でき、“会”を使う意識が定着してきたことが分かる。次の図1、図2は学生の思考プロセスが見て取れる実例である。

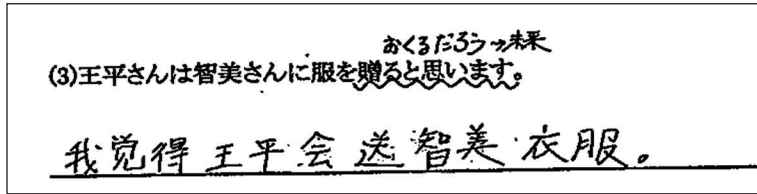


図1 4-II-②の解答実例

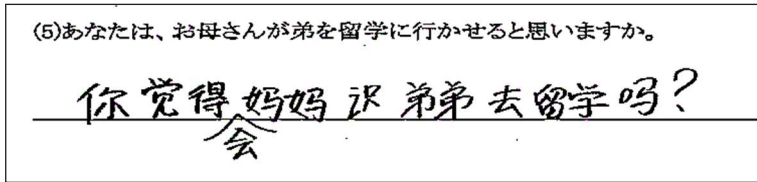


図2 4-II-③の解答実例

図1では、学習者が自ら「だろう」を補っていることが分かる。図2では、“会”以外の問題は存在するが、“会”については、学習者が使うべきことに気づいて書き足したものと推察できる。

## 5. 教授法の提案

以上のような分析と考察から、初級学習者に可能性を表す“会”を教える際、我々研究チームとしては以下の四点を提案したい。

一、「未来」を強調すること。今回の正誤判断問題において、その判断理由の記述内容から、学習者は“会”が推測を表すことは理解していても、主に「未来予測」に使うことは認識できていないケースが確認できた。その中で、“他会去过。”、“他昨天会是坐飞机来的。”のような文を正しいと誤判断してしまった学習者が少なくなかった。2.1節の先行研究で確認したように、“会”は発話現在時点・過去時点に起きている可能性を表す場合もあるが、“他会去过。”などが非文であるように使用制限があるため、初級段階では、学習者に可能性の“会”は主に「未来予測」に使うことを強調しておくべきであると思われる。

二、「だろう / はずだ」を学習者自ら補えるようにすること。本稿では、学習者は可能性の“会”

が「だろう / はずだ」に該当すると考え、日本語文に「だろう / はずだ」がある場合にのみ“会”の必要性を見出せる確率が非常に高いことがデータにより実証された。日本語と中国語の一对一対応の思い込みによる誤用は、未来予測の“会”だけではなく、未来の予定や話者が決心していることを言及する際に、助動詞の“要”にも見受けられる。これも、日本語では「ル形」だけで未来の出来事を表現できることが関係していると考えられる。つまり、日本語に言語化されない助動詞の教授法として、学習者に対してまず日本語とは違い、中国語では未来の事態を述べる際、「何らかのマーカ―が付く」という意識を植え付けていくことが重要であると思われる。例えば、予測の場合は“会”、予定や決心を述べる場合は“要”などである。加えて、今回取り扱っている可能性を表す助動詞“会”については、推量を表す英語の助動詞 can/could/will と似通っている部分もあるため、理解へのアプローチの一つとして、英語を介してみるのも有効な教授法ではないかと考えられる。

三、「助動詞」の文法規則を強調すること。「未来予測」を表す“会”において最も目立った誤答は欠落ミスであったが、次に多かったのが語順ミスとなった。その原因として、学習者はそもそも“会”の品詞が助動詞であると認識していない、または助動詞であると認識していても、その語順に関する文法規則への理解が不十分であったと考えられる。そのため、“会”を時間詞や主語の前に置くようなミスに繋がってしまったと言えるだろう。従って、初級学習者に対しては、“会”が助動詞であることと、その語順に関する文法規則について都度確認していくことが、“会”の習得には不可欠であると思われる。

四、様々なシチュエーションの中で繰り返し練習すること。今回、可能性の“会”を取り扱っていた43冊のテキストを調査したところ、天気関連や「会来吗？(来るだろうか?)」のような例文が非常に多く、約8割のテキストで使用されていた。また、小テストの「“会”を使うことを想起できているが、非文となっているもの」の誤答パターンから、“会……的”と“是……的”の混同ミス、“让”など他の助動詞と同じ文で使う場合、複数の助動詞をどの順に並べるかが分からない、などの問題も見受けられた。これらの結果から、「未来予測」の“会”を学習者自身で意識的に使えるように、“会”の単元を終えてからも、多様なシチュエーションを追加して会話方式の練習を積み上げていくことが重要である。そして今後は、“会”と副詞、他の助動詞、文末助詞の“的”や“了”などと共起するパターンも提示することで、“会”への理解を一層深めさせていきたい。

## 6. 終わりに

今回、可能性を表す“会”について、初級中国語学習者が習得すべき典型的な用法としての「未来予測」を中心に、小テストを実施することによってデータを収集し、学習者の誤用パターン



を分析しながら、より効果的な教授法を考究することを試みた。データ結果から、学習者の“会”に対する理解を深め、使うべき場面を意識させる効果があったと言える。しかし、未だ十分に習得できていない学習者も存在するため、今後も更なる教授法を探求していきたい。

そして、今回は対象としていないが、2.1節の先行研究で確認したように、“会”には「習慣相」や「未来の予定」を表す用法もあり、管見の限り、初級のテキストではほとんど取り扱われていないが、我々研究チームは、これらを含めて更なる“会”の教授法についても考究していきたい。

## 注

- 1) 関西外国語大学英語国際学部では、一年生向けに、春学期には「基礎中国語」(文法)と「中国語会話Ⅰ」、秋学期には「初級中国語」(文法)と「中国語会話Ⅱ」が開講されている。文法の授業では『好きです♡中国語・文法編』(朝日出版社)、会話の授業では『好きです♡中国語・会話編』(朝日出版社)をテキストとして使っており、学習内容はHSKの1級～2級及び3級の一部の文法項目や単語となっている。
- 2) 第1回目小テスト、第2回目小テスト、第3回目小テスト、第4回目小テストの被験者はそれぞれ249名、252名、246名、232名である。また、論が展開しやすいよう、本稿用に小テストの問題のタイプ別に番号を新しく記したため、実施した小テストの番号とは異なるものとなっている。
- 3) 「“会”△：“会”を使うことを想起できているが、非文となっているもの」の誤答パターンを次のように分類する。【語順ミス】：“会”を主語や時間詞の前に置いてしまう、“会”が“让”などの助動詞と同時に現れると、両者の語順を間違えてしまう、など“会”が正しい位置に置かれていないミス。【共起ミス】：“会……的”で疑問文を作ってしまう、“是……的”と混同してしまうミス。【否定ミス】：“会”否定形を“会不”/“会没”/“没会”などにしてしまうミス。上記以外のミスに関しては、今回は考察対象から外した。
- 4) 今回は、「未来予測」の“会”を意識的に使えているかを調査するため、翻訳問題に関しては、「“会”○：“会”を使った正しい文となっているもの」と「“会”△：“会”を使うことを想起できているが、非文となっているもの」の2項目の合計で正解率を計算している。そして、本稿では、説明の便宜上、各問題文を、「小テストの回数-問題文のタイプ-問題文の番号(例：1-II-①)」のように記す。

## 参考文献

- 相原 茂・石田 知子・戸沼 市子(1996)『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』同友社。
- 木村 英樹(2006)「「持続」・「完了」の視点を超えて—北京官話における「実存相」の提案」、『日本語文法』6(2)、pp.45-61。
- 姜 麗萍(主編)(2014)《HSK標準教程3》北京語言大学出版社。

可能性を表す“会”の教授法について

- 範 曉蕾 (2020) 《漢語情態詞の語義地図研究》商務印書館。
- 柯 理思 (2007) 漢語里標注慣常動作的形式. 張 黎・古川 裕・任 鷹・下地 早智子 (主編) 《日本現代漢語語法研究論文選》、pp.101-124、北京語言大学出版社。
- 劉 月華・潘 文娛・故 韡 (2001) 《實用現代漢語語法 (増訂本)》商務印書館。
- 羅 華 (2021) 「“能”“会”“可以”の教授法についての一考察」、『APU 言語学論叢』6、pp.1-16。
- 呂 叔湘 (1999) 《現代漢語八百詞 (増訂本)》商務印書館。
- 松田 春奈 (2015) 「日本人中国語学習者の誤用とその教授法・中国語のテキストの問題点について 可能・可能性を表す“能”と“会”助動詞を中心に」、『名桜大学紀要』20、pp.15-28。
- 中村 俊弘 (2020) 「HSK と教学上の問題点について」、『御殿山語用論研究論集』第6号、pp.35-52、御殿山語用論研究会編集発行。
- 杉村 博文 (2017) 《現代漢語語法研究—以日語為参考系》、大阪大学出版会。
- 朱 德熙 (1982) 《語法講義》商務印書館。
- 中国教育部中外語言交流合作中心 (2021) 『中国語検定 HSK 公式過去問集 3 級 [2021 年度版]』、スプリックス。

(やすだ・まほ 英語国際学部教授)

(かごたに・かおり 英語国際学部准教授)

(ちょう・らん 英語国際学部准教授)

(そう・てんこう 英語国際学部准教授)

